

A. 主な動き

1. 内政

▼検事総長の傷害致死事件への関与の可能性

・14日、ルプ議会議長(民主党党首)は、レキヤン内相(自由民主党)及びズプコ検事総長は12月23日に発生した傷害致死事件の捜査に影響が出ないようにするため、捜査終了まで同ポストから離れるべきである旨発言。同日、検事総局報道官は、ズプコ検事総長が捜査終了まで検事総長の職務を一時停止したとし、この間ピンチャ第一副検事総長が検事総長代行を務める旨発表。

・14日、与党連合「欧州統合のための同盟」(AEI)は、幹部評議会を行い同事件につき協議、議会特別捜査委員会を設置することを決定。16日、内務省は、本件に関する刑事事件に基づいた捜査を開始。

・18日、ズプコ検事総長は、辞表を提出。同日、プラホトニク議会第一副議長(民主党)は、検事総長及び中央選挙管理委員会委員長等のポストを野党共産党に譲る旨の提案を議会に登録。

2. 経済

▼マクロ経済

・16日、国家統計局は、2012年1-11月期の貿易収支について、輸出額が19億7,400万米ドル(対前年同期比1.2%減)、輸入額が47億800万米ドル(1.1%増)、貿易収支が27億ドルの赤字と発表。

・17日、世界銀行は、モルドバのGDP成長率が2013年は3.1%、2014年には4.0%、2015年には5.0%を達成する旨予測。

▼エネルギー戦略

・16日、議会は、2030年までのエネルギー戦略を承認。同戦略はエネルギー基盤を近代化し、再生可能エネルギーを活用することで、国のエネルギー安全保障を確立するために効率的なエネルギー部門を目指す内容。また、同日、2013-2015年の省エネルギー分野における行動計画についても承認。

3. 外政

▼アイデ・ノルウェー外相の来訪

・15日、フィラト首相は、来訪したアイデ・ノルウェー外相と会談し、両国関係深化の可能性に関し協議。アイデ外相は、モルドバの欧州統合路線支持を表明。

・15日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、アイデ外相

と会談し、両国関係及びモルドバの欧州統合問題等に関し協議。アイデ外相は、モルドバとEUとの査証免除が実現した場合、ノルウェーもモルドバ国民に対する査証を免除する用意がある旨発言。

▼レアンカ副首相兼外務・欧州統合相のルーマニア訪問

・18日、レアンカ副首相兼外務・欧州統合相は、ルーマニアを訪問し、コラツェアン外相と会談。両外相は、モルドバの欧州統合に向けた取り組みに関し協議し、両国政府間及び議会間委員会を2013年に開催することで合意。コラツェアン外相は、モルドバの欧州統合路線支持を改めて表明。

▼その他

・17日、フィラト首相は、2013年のモルドバ政府の優先課題を発表し、11月の「東方パートナーシップ」サミットにおけるFTA創設を含むEUとの連合協定署名に向けた国内改革の継続、国家再統合及び沿ドニエプル紛争解決、4%の経済成長、ルーマニア、ウクライナ及びロシアとの関係活性化等を列挙。

▼世論調査

[モルドバ社会・人口学協会]

・モルドバのEU加盟の是非を問う国民投票が実施された場合の回答

賛成:52%、反対:29%

・モルドバの関税同盟加盟の是非を問う国民投票が実施された場合の回答

賛成:48%、反対:25%

・調査は12月21日から30日にかけて1,194名の成人を対象に実施。

4. 二国間関係

▼ウサトゥイ保健大臣・パリホヴィチ議会副議長の訪日

・16日、阿部外務大臣政務官は、訪日中のウサトゥイ保健大臣の表敬を受け、東日本大震災におけるモルドバ政府の日本に対する支援につき謝意を表し、両国関係発展を期待する旨発言。これに対し、ウサトゥイ大臣は、ODAの枠組みで実施された日本のモルドバに対する医療分野における協力につき謝意を表し、今後も引き続き協力を期待する旨発言。

・17日、訪日中のパリホヴィチ議会副議長は、東京におけるモルドバワインの展示・試飲会に出席。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。

(了)